

わたしが四週間のサンディエゴでの生活を通して感じたことは、なによりも日本と比べて個性の主張を大切にしているということです。

わたしが通ったサンディエゴ州立大学は月曜日から木曜日までの正規の授業があり、金曜日はオプションで希望する講座をとる、というシステムでした。正規の授業はオーラルイングリッシュ、リスニング、ライティング、グラマーのうちの三つが毎日のローテーションで行われ、初日のプレイメントテストでクラス分けがされました。

そのなかでも特に日本の授業との違いが顕著に表れていると感じたのは、唯一毎日行われるオーラルイングリッシュです。わたしが所属していたクラスは母国が日本、韓国、台湾、中国、サウジアラビア、イタリアの 15 人で構成されており、教室に入ったそのときからそれぞれの母国語を話すことは禁止されました。最初は戸惑いましたが、クラスメイトたちの英語に対する意識の高さに、遅れてはいけないと感じ、無意識に英語が出るようになることを目標に、努力しました。

授業は、アメリカ特有の慣習やスラング、文化などを学び、その後自分達の母国と比較しディスカッションするというような内容でした。ディスカッションするにあたって、日本人以外の生徒は、答えを求められたときにためらうことなく自分の意見を述べており、ここが日本では見られない光景だなと感じました。また、金曜日の授業には、映画製作やサーフィンなどもあり、これもアメリカ特有だと思いました。

放課後はトローリーに乗り、サンディエゴのいろんな観光地を訪れました。1ヶ月分の定期のようなものを買くと、サンディエゴ内であれば、バスもトローリーも乗り放題だったため、効率よく活用しました。トローリーで一時間圏内に Old Town や Seaport Village、San Diego Zoo、Las Americas Premium Outlets などがあり、退屈することは全くありませんでした。

また、日本では絶対に考えられないと思ったのが、毎週金曜、土曜の 22 時～26 時まで行われる、Aztec Nights というパーティーです。これは大学の ID カードを提示すればピザが無料で食べられたり、大学内に遊園地のようなアトラクションがいくつもできたこともあるような、いかにもアメリカを感じることができる行事でした。

アメリカでの生活は毎日が新鮮で、ときには戸惑うようなこともありましたが、自分の英語力を伸ばすことだけでなく、外国に対する新しい考え方や教科書では学べない様々なことを身につけることができたのではないかと感じます。この経験を生かし、さらに自分の見聞を広められるようなことに挑戦していきたいです。



私は、中学・高校生の頃、英語がとても嫌いでした。英語のすべてに抵抗を感じ、英会話の先生と話すことをできるだけ避けてきたし、試験でもなかなか点数が取れませんでした。大学入試の際に英語を本格的に勉強し始め、試験などで点数が伸びていくにつれて英語に少しずつ親しみを覚えました。大学生になって、ふと人生の経験としてアメリカに行きたいと思い始めました。そこで今回、このプログラムに参加することにしました。

このプログラムでは、渡米前にも、ビザの取得など、普段は関わることのないような体験ができました。アメリカでの生活は、英語が苦手でも実際は何とかなるだろうと思っていましたが、初日から大変なことばかりでした。サンディエゴの空港に着いてからは、ホームステイなので日本人の友人たちとは一時離れることとなります。車の中や、家に着いたときなど、当然ですが、一切日本語が無く、お経のような言葉が飛び交いました。本当に何を言っているのかわからないレベルで、コミュニケーションが全く取れませんでした。何とってご飯を食べればいいのかもわからないし、洗濯物をどうすればいいのかも何もわからないし、聞くこともできませんでした。そういうわけで、初日は、ホームステイ先についてからは、ずっと部屋の中に引きこもっていました。

2日目からは、学校に通うことになりました。もちろんすべての説明は英語で行われ、頭がおかしくなりそうでした。登校初日から自分たちで学生証を発行してもらったり、バスの定期券を購入したりしなければならず、大変でした。さらに、朝食と夕食はホームステイ先で提供されるのですが、昼食は自分たちでどうにかしなければなりません。まずはアメリカといえばハンバーガーと思い、お店に行きました。ハンバーガー1つを注文するだけなのですが、日本のものと名称が違ったり、普段聞かれないようなことを聞かれたりと戸惑いました。また、まともに話すことも聞くこともできずパニックになりました。

授業は、留学生向けの比較的易しいものでした。しかし、私にとって、最初の数日は監獄のようなものでした。自分の英語の発音は、文法は、単語は正しいのかどうか、おかしなことを言っていないだろうかなど様々な考えが頭の中を埋め尽くしていたからです。しかし、怖いもので、そのような不安たちは時間が経つにつれて薄れていきました。おそらく文法が完全でなくても大体は意味をくみ取ってもらえたり、言っていることのすべてを聞き取れなくても何となく意味を理解できるようになったからです。さらに、授業の特徴として、座学ばかりではなく、教室の外に出て実際に買い物に行ったりするといった楽しいかつ実践的だったことも不安を払拭できた理由の1つです。

1つ1つの出来事をピックアップすればさまざまあるのですが、ここでは挙げきりません。ただ、生活のすべてがとても刺激的で、この地に足を踏み入れるだけで、英語への見方や考え方が大きく変わりました。英語を、勉強の科目というだけでなくコミュニケーションのツールであるということを再確認できた1ヶ月でした。





今回の語学研修は私にとって初めての海外で生活する経験でした。

初めて学校へ行く日、私はどの建物に行けばよいかわからず、大学のオフィスの人に尋ねましたが、オフィスの人も ALI の存在を知らず、迷子になっていました。そんなときに現地の学生が私と一緒に目的地を探してくれ、無事に ALI のオフィスに到着することができました。授業では、私たちはサンディエゴ州立大学での最初のオリエンテーションに参加しておらず、SDSU の授業ではすでにクラスメイトたちが仲良くなっていたため、輪には入れずとても不安でしたが、皆とてもフレンドリーに接してくれたおかげですぐにクラスになじむことができました。また、SDSU には JSA という日本文化をテーマに活動するサークルがあり、そこではたくさんの友達を作ることができました。JSA の友達と買い物に行ったり、ボウリングをしたり、私が帰国する前は、JSA の友人は私にお別れのプレゼントまでしてくれ JSA のメンバーとはとても楽しい時間を過ごすことができました。ALI では他大学の日本人学生の友達ができ、彼らとは射撃場へ行き、本物の銃を発砲したり、ロサンゼルスと一緒に観光に行ったり、アメリカでしかできないことをたくさん行いました。このように、たくさんの人々が私にとっても親切に接してくれ、とても幸せな時間を過ごせました。



私は帰国したあとの自分を振り返り、出発する前の自分と比べ、人とコミュニケーションをとることにおいて大きく変化したと感じています。私はもともと人と会話するのが苦手で、人と目を合わせて話すこともできませんでしたが、今回の語学研修での様々な経験が私をよい方向へ変えてくれました。通学途中、毎朝私に会うと“Hello”と挨拶だけして去って行く SDSU の生徒がいました。不安で押しつぶされそうな時、このようなちょっとした言葉や行動に本当にたすけられました。私は夏期語学研修を通し英語が特別できるようにはなったりはしませんでした。このような人々の影響を受け、コミュニケーションをとることの大切さを実感し、自分の苦手を克服することができました。

今回、1ヶ月の夏季語学研修を通じて今までに体験したことのないような、貴重な経験ができたと思っています。私が夏季語学研修への参加を決めた理由は、特に英語が得意だった訳でも、アメリカに強い関心があった訳でもなく、大学に入っの初めての夏休み、何か新しいことに挑戦したいという単純な理由でした。決断したものの、行く前は、言葉もわからない中、知らない土地で1ヶ月生活するというにすごく不安を感じていました。でも、始めてみるとあっという間で、帰国が近づくと、戻りたくない！と毎日言っていました。

私がホームステイした家は、83歳のホストマザーの一人暮らしで、台湾人のルームメイトと私の3人での暮らしでした。初めはホストマザーが何を言っているのか分からず困惑しましたが、ルームメイトは英語が上手でいつも私を助けてくれました。また、このルームメイトは日本にも関心が深く、すぐに仲良くなりました。夜にはお互いの部屋に行って話したり、近くの店に一緒に買い物に行ったりと、私より先に来っていたので、周辺のことや学校のことなど本当にいろいろなことを教えてくれました。このルームメイトのおかげで、すぐに生活に慣れることができました。また、私のホームステイ先はこれまでに何人もの留学生を受け入れており、以前ホームステイしていた人が遊びに来て一緒にご飯を食べていろいろな話が聞けるということもありました。

大学の授業は様々な国の人とグループワークを通じ仲良くなれて、違った文化を教えてくれたり、家族の写真を見せ合って話したりと、とても楽しかったです。一番刺激を受けたことは、クラスの生徒の積極的な姿勢です。彼らは、つたない英語でも積極的にコミュニケーションを取ろうとするし、また私の意見を求めてきます。自分の言いたいことがうまく伝わらなくて歯がゆく感じたり、難しい内容になると相手の言っていることがわからなかったりと、自分の英語力の足りなさを痛感する場面が何度もありました。

今回の短期での留学を通じて、ここでの様々な体験や、人との出会いは、私のこれからの大きな影響を与えてくれるものだと思確信しています。あの時、参加を決めて本当に良かったと思います。





初めてのアメリカ、初めての 2 週間以上の海外滞在ということで、期待と不安に胸を膨らませながら、サンディエゴ行きの飛行機に乗り込みました。無事に16時間のフライトを終え、飛行機から降りればテレビで観るようなアメリカの景色が広がっていました。長時間のフライトと時差の影響による睡眠不足のために疲労感を感じつつ、目の前に広がる景色や匂い、聞こえてくる言葉は英語ばかりと、五感で感じる異国間に感動していました。現地時間でお昼過ぎに到着したのですが、先述した通りその日は疲れ果てていたので、翌日から始まる授業に備え休息をとっていました。

そして翌日、ALI でガイダンスを受け、キャンパス内を探索しました。とても素敵なキャンパスだったのですが、驚くほど広がったので全てをまわりきることはできませんでした。第 1 週は慣れない環境についていくのが必死であつという間に過ぎていきました。授業は言うまでもなく全て英語で行われたため、まず先生の言ったことを聞き取り、理解するところから始まりました。それに最初は戸惑い、なかなかうまく授業内容を汲み取ることができませんでした。1日3コマだけでしたが、帰る頃には疲労感がすごく、どうしても家に着いたら2時間ほど睡眠が必要でした。そのため、ホストファミリーとコミュニケーションを図る時間を思うように取れず、そこは反省すべき点だと思います。また、授業について特記すべきなことは1週目だけで、2週目3週目となると英語に耳が慣れ、特に授業についていけないと感じることはありませんでした。授業形態としては座学のみではなく、グループワークやペアワークが多く組み込まれており、どの授業でも英語を話す機会がありました。私は特にスピーキングが苦手だったために、授業中は相手に迷惑をかけてしまうことが多々あったため、スピーキングが怖い、苦手だと感じている人は渡米前にスピーキングの練習をしていくことをお勧めします。

ふりかえってみると本当にあつという間の1ヶ月でした。渡米当初は帰りたいたいと考えていたのですが、向こうの生活に慣れ、またそれが楽し過ぎて最後には帰りたくないという思いでいっぱいでした。滞在中に本当に様々なことに挑戦することができました。基本的には学校がメインとなっていましたが、サンディエゴなどのいろいろな観光地に自分で行くこともできました。特にディズニーランドのいくことができたのはとても嬉しかったです。たった1ヶ月、されど1ヶ月です。自分次第でプラスにもマイナスにもなる経験です。私はこの研修に参加してよかったと心から思います。この研修を通して得たことをこれからの学びに生かして生きたいです。



私がサンディエゴ州立大学の夏季語学研修に参加しようと思った理由は、もともと勉強をすることがとても嫌いであり、特に英語が苦手でしたが、海外のドラマや映画が好きで、実際にアメリカに行ってみたいと思ったからです。また、日本は多種多様な民族が暮らしている国ではないため、人種のるつぼと呼ばれるアメリカに行き、どのようにお互いの民族が暮らしているのかを知りたかったからです。

アメリカに着き、授業を受けてみるとクラスメイトは日本人の生徒が多かったですが、大学で英語を専攻とする人が多く、英語力の差を感じました。また、大分大学から参加する私達は他の生徒より一週間遅れて授業に参加したため、初日はなかなか馴染めませんでした。そのため、アメリカに着いてからの三日間はとても日本に帰りたいたいという思いが強かったです。しかし、クラスメイトが話しかけてくれたり、授業自体が生徒同士でコミュニケーションをとることが多かったので、すぐに仲良くなりました。ホストファミリーは女性の方が一人でしたが、とても優しく、私の拙い英語を一生懸命理解してくれました。一週間もすれば、英語ばかりの生活にも慣れ、放課後は観光や買い物に行き、場所や商品について分からなければ携帯で調べるのではなく現地の人に英語で聞くということをしました。私が話す英語は文法がめちゃくちゃで、ボディランゲージも多かったですが、現地の人たちは最後まで話を聞いてくれて優しく教えてくれました。トラックの運転手がわざわざ声をかけてくれて道を教えてくれたこともありました。アメリカに住んでいる人たちは、体が不自由の人や観光客などの手助けを積極的にしたりと、とても人助けをしていました。また、サンディエゴは治安が良く、様々な人種が住んでいるため、人種差別は私が過ごしている間は感じられず、とても過ごしやすい地域だなと思いました。

語学研修が終わりに近づくと英語での会話も慣れ、ホストファミリーとアメリカの政治や企業について話すことができ、実際にアメリカに住んでいる人の思いや考えを聞けるという体験ができました。

この語学研修に参加したことで、自分の言いたいことをもっと英語で伝えたいという気持ちになり、英語に対して苦手意識がなくなりました。とても貴重な時間を過ごすことができ、親や先生方にとっても感謝しています。





人生二度目となる海外留学の地は、アメリカのサンディエゴであった。メキシコに近いこの地区は一年間を通してほとんど雨が降らず、歴史の深い街であった。私は英語の文法や筆記には自信は全くなく、ある程度の単語が分かるくらいのレベルで最初は一ヶ月も過ごせるか不安であった。しかし、二度目ということもあり、それほど英語が話せなくても現地の人には思っているよりも親切で理解してくれようとするのを知っていたためとても楽しみであった。

今回お世話になったホストファミリーは一人暮らしの女性の家で、とてもおしゃべりが好きな人であった。最初は私のためにたくさん話してくれているのが分かっていても、まだ自分の英語スキルがそれほど高くないので、一言も聞き逃さないように聞くのに必死で、自分の話をあまりすることができず、また聞き疲れる毎日であった。しかし、嫌になることもあったが、このホストファミリーのおかげで早い英語を聞き取るリスニングに関してとてもよい練習となり、帰国までに自分でも感じるほど聞こえてくる単語が増えた。また、毎日色々な話をしてくれたため多くの知識を得ることができ、ホストファミリーと家族のように仲良くなることができた。

キャンパスの生活は日本とは自由度や規模が全く異なり、とても新鮮味のある大学生活を送れた。クラスは日本人が多かったが、他県の人であったり、期間も違うため、意識の違いや取り組む姿勢にとっても刺激をもらうことができた。講義は文法を学ぶものから、映画鑑賞など様々で、飽きずに毎日受けることができた。放課後は実際の大学の学生と交流したり、ジムでバスケットをするなど毎日楽しく過ごすことができた。週末はサンディエゴの観光名所やグルメを自分で調べ、バスや電車を使って色々なものを見たり、食べたりした。自分でなんでもすることが多い為、アメリカで自分たちだけで行けたという経験はとても自信につながった。また他県や他国の友人も増え、自分の世界を広げる良い機会となった。

一ヶ月留学できるのは学生のうちだと思うので迷っている人がいたら是非チャレンジするべきだと考える。英語のスキルアップに向けたモチベーションが上がるだけでなく、今後の自分の人生を変える良い体験になることは間違いない。



※ 記載の学年はすべて参加当時(2017 年度)のものです。